

第 58 回 日本生殖医学会

2013.11.15-16. 兵庫

外来卵管鏡下卵管形成術 (FT) の有用性についての検討

村上純子、澤辺麻衣子、片岡信彦、井田守、福田愛作、森本義晴

IVF 大阪クリニック、IVF なんばクリニック

【目的】

卵管通過障害は女性不妊原因の約 30%といわれる。当院では 2001 年から卵管性不妊に対し外来卵管鏡下卵管形成術 (FT) を実施し卵管通過性を改善して、まずは自然妊娠を目指している。今回、FT 施行しその後の一般不妊治療による妊娠成立への有用性について 3000 症例の検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

子宮卵管造影検査にて卵管通過障害 (閉塞および狭窄: 両側および片側を含む) と診断され、2001 年 4 月~2012 年 6 月に外来 FT を施行した症例は 3004 例、そのうち通過成功した 3000 例を対象とした。月経終了直後から排卵までの時期に局所麻酔下または静脈麻酔下にて FT 施行、術後半年間は一般不妊治療 (タイミング療法または人工授精) による経過観察を行い、その治療成績について検討した。

【結果】

3000 症例中 522 症例 (17.4%) に妊娠成立が認められた。そのうち、片側罹患者の妊娠率は 23.1% (143/618) であり、両側卵管罹患者の妊娠率 15.9% (379/2381) に比べ有意 ($p < 0.01$) に高率であった。また FT 後妊娠成立までの平均日数は 2 ヶ月 10 日 (最短 20 日後) であった。また FT 実施までの不妊期間は、全症例の平均が 3 年 6 ヶ月 (最短 1 ヶ月~最大 22 年 10 ヶ月)、妊娠成立した症例では平均 2 年 11 ヶ月 (最短 2 ヶ月~最大 12 年 0 ヶ月) であった。年齢別での妊娠率は、29 歳以下 25.3% (115/454)、30 歳以上 34 歳以下 20.3% (238/1172) 35 歳以上 39 歳以下 14.8% (153/1033)、40 歳以上は 5.9% (17/341) だった。40 歳以上の妊娠成立者 17 名の内 40~41 歳は 14 名、42 歳 2 名、45 歳 1 名だった。

【考察】

卵管通過障害と診断された患者にとって FT は ART へ進む前の選択肢として有効である。しかし FT 後の妊娠率は ART と同様に、患者年齢の上昇に伴い低下し 40 歳代では約 6.0%となっている。40 歳代であっても FT は十分治療の選択肢となり得るが、2012 年の当院での同年代の ART 妊娠率が 16.8%であることを勘案すれば、40 歳以上では ART を早期に実施することが妊娠成立の可能性が高いと思われる。本検討により、卵管通過障害と診断された若年層患者が ART 以外の妊娠を希望された場合、FT は有効な治療法であると考えられる。一方で高齢層患者が FT 後一般治療による妊娠を希望された場合には、治療成績を充分説明し、理解納得して頂いた上で選択してもらえよう配慮する必要がある。